

2025年



建交労道本部夏季闘争速報

No. 2 / 2025年6月13日

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL. 011(711)7377
FAX. 011(711)7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

建交労フェスタ in 広島

全国から270人の仲間が参加

6月6～8日に「第9回建交労フェスタ in 広島」が開かれ、全国から270人の仲間が集まりました。北海道から道本部の森国委員長と宮澤書記長をはじめ旭川支部、札幌合同支部、後志労災支部、函館支部から10人が参加しました。

1日目は、オープニングセレモニーで「国鉄広島ナッパーズ」が会場いっぱいに歌声を響かせて全国から参加した仲間を出迎えました。続いて登場したお笑い芸人の「せやろがいおじさん」は、独自の視点で政治や平和に対する物の見方や考え方で会場を沸かせました。また、高等女学校1年生の12才のときに爆心地から3.5km離れた自宅で被ばくして両親を亡くした笠岡貞江さんから「原爆被害の実相の講話」を聴き、あらためて悲惨な戦争を絶対に繰り返してはならないことを参加者と思いをひとつにしました。2日目の現地実行委員会などが企画したオプションルツアーでも、平和資料館や呉艦船巡り、平和公園にある碑巡りや「建交労の木」などを見学し、参加者一人ひとりが平和への思いをあらたにしました。

3日目には、フェスタの様子が写真スライドで上映されたほか、中央本部の足立浩委員長がコーディネーターをつとめて「業種別運動に望むもの・将来展望」について、業種部会の仲間がパネリストとして参加して思い思いに発言し交流しました。また、広島支部の廣木昭代さん（98才）を青年部と女性部が囲み、廣木さんが子どもを抱え戦後をどうやって生き抜いてきたかについて懇談しました。1日目の夕食交流会でも沖縄県本部のメンバーが、沖縄の長寿を祝う「カジマヤーユーエー」（風車祝い）で、色とりどりの風車と歌と踊りで盛大に長寿を祝いました。

最後に青年部、女性部、広島県本部の3人から感想と決意表明がおこなわれ、青年部を代表して函館支部の宝福午臣さんが「社会が大きく変化するなかで、若い世代の声が埋もれてしまうことが少なくありません。しかし、いまを生きる私たちこそがこれからの働き方、組合運動の未来をつくる力を持っています。私たちは誰一人取り残されない社会を目指し、雇用の安定、公正な評価、働きがいのある職場の実現にむけて、青年組合員の団結の力を信じて粘り強くとりくんでいきたい」と決意を述べました。

JR北海道と1回目の夏季一時金交渉

北海道鉄道本部は6月9日に、夏期一時金についてJR北海道と1回目の団体交渉をおこないました。この日は会社側から概況報告があり「鉄道運輸収入は観光需要もあって好調ではあるが、物価高騰による営業費用も増加している。安全の根幹を揺るがす事象により北海道運輸局から2年間の強化型保安監査体制が課せられるなど社会的に厳しい状況だが、社員の奮闘に応えるべき鋭意検討を重ねていく」というものでした。建交労からは「一般企業であれば人件費予算が組まれているが、JR北海道は前年度実績を基に数字を弾いている。収入の好調さが示されており、前年を上回る支給は確保されているものと考えられる。物価高騰は毎月の収入の違いに関係なく、すべての社員の家計を圧迫しており、収入が低いほど日々の生活が厳しい環境に置かれていることを考慮して一律7万円の付加給を求めていることを受けとめてほしい。また、エルダー社員に適用されている乗率1/2の凍結と実施される場合には誰もが納得できる根拠を示すこと」を求めました。「次回の団体交渉では、社員の士気が高まり家族の生活が守られ、若年社員が展望を開けるような回答を期待する」としてこの日の交渉を終えました。